



ベトナムの日本語教育を知るシリーズ 第2回

# ベトナム日本語教育の「後退期」を支えた世代 の語りから見えてきたもの

坪田珠里（京都外国語大学）

これまでの日本語教育史では「後退期」と称されていた1980年代のベトナム日本語教育。しかし、この世代を生きた日本語関係者の語りからは、少し違った事実が見えてきました。ベトナム人により支えられ繋がっている日本語教育の姿を共有する機会にしたいと思っています。

2019年6月23日（日）

15:00～16:30（日本時間）

場所：オンライン会議システムZOOM上

（参加申し込みをされた方にはZOOMのリンクをお送りします）

参加申し込み：<https://forms.gle/E1mmnf1kbyoYLiWBA>

**参加費無料**    **アクセス先着100名まで**



言語文化教育研究学会は、ハノイ日本語教育研究会とタンロン大学の共催で、2019年12月7-8日にベトナムタンロン大学で国際研究集会を行います。ベトナムの日本語学習者は増加しており、日本国内では、中国に次いで2番目にベトナムからの留学生が多くなっています。しかし、私達はベトナムの日本語学習者や日本語教育についてどれくらい知っているのでしょうか。12月に行われるベトナムでの研究集会に向けて、少しでもベトナムについて学べればと考え、プレ企画を計画しました。「ベトナムの研究集会には行けないけど…」という方もご参加いただけます。みなさまのご参加、お待ちしております。

ベトナムでの研究集会及び今後のプレ企画の予定については下記のリンクをご覧ください。

現在、発表を募集しています。奮ってご応募ください。

<http://alce.jp/meeting/07/>